

1. 研究課題名： 特定外来生物の重点的防除対策のための手法開発

2. 研究代表者氏名及び所属：
五箇 公一（国立環境研究所）



3. 研究実施期間：平成 26～28 年度

4. 研究の趣旨・概要

外来生物法が施行されて以降、様々な外来生物の防除事業が進められるなか、環境省外来生物被害防止行動計画において、限られた予算を投下するにあたり、優先的に防除すべき外来生物及び地域の選定が必要であることが議論され、防除が進みつつも低密度状態に移行し、根絶のためには新規防除手法を導入する必要がある種、及び世界自然遺産等の自然保護地域において緊急に排除する必要がある種を、優先的・重点的に防除対象とする方針がまとめられている。

本課題では、アルゼンチンアリ、ヒアリ、アカカミアリなどの非意図的外来生物の侵入を水際で阻止するための検疫防除手法を開発するとともに、知床半島や小笠原諸島などの重要自然保護地域から緊急に外来生物を駆除するために、特に化学的手法を駆使した革新的防除技術を開発する。得られた情報をもとに、防除効果・成功確率をモデル推定し、効率的な防除戦略を立案する。

以上の成果より限られた予算の中でこれらの外来生物を確実に根絶もしくは封じ込めする実践的・革新的手法を完成させ、成功事例を作り出すことにより生物多様性条約愛知目標 Target9 の目標達成に貢献する。

5. 研究項目及び実施体制

- ①非意図的外来生物の侵入経路の特定（森林総合研究所）
- ②重点的に防除すべき外来昆虫類の対策手法開発（国立環境研究所）
- ③小笠原における外来生物緊急防除対策（自然環境研究センター）
- ④琉球・奄美における外来生物重点防除対策（岡山理科大学）
- ⑤琵琶湖におけるオオクチバス等の重点的防除対策（琵琶湖博物館）
- ⑥オオクチバス等の化学的防除手法開発（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

6. 研究のイメージ

